

番号	遺跡名	遺跡種別	所在地	系統／器種（タタキ）／焼成／他	推定時期（共存土器）	備考	文献	福岡市報告	時期の整理
1	元岡・桑原 46 次 B-1 区 包含層	集落	福岡県福岡市西区（旧志摩郡）	楽浪／筒坯体部上半～口縁部片／瓦質／摩滅著しいが白色泥質胎土、外表面黒灰色	谷部包含層だが遺物僅少、42 次 SD01 の下流にあたり後期後半～終末か？	本報告 Fig. 22-15	久住猛雄 2007	福岡市第 964 集	後期後半～終末期か？
2	今宿五郎江 11 次 旧河道上包含層	集落	福岡県福岡市西区（旧怡土郡）	楽浪／鉢（碗形鉢）4 点以上／瓦質／白色泥質胎土、一部外表面黒灰色、一部暗文風ミガキ	水路遺構上層出土、後期後半～終末期（I B 期以降少ない）	未報告（整理中）	未報告（整理中）		後期後半～I A 期
3	コノリ 3 次 包含層	集落	福岡県福岡市西区（旧早良郡）	楽浪／壺？（罐？）胴部片（網罟）／瓦質／白色泥質胎土、内面当具痕跡	包含層は 6 世紀以降を略くとも弥生後期後半～I A 期が主体	報文 Fig. 15-114、寺井誠氏教示	池田祐司 2002、寺井誠 2006	福岡市第 728 集	後期後半
4	比恵 18 次 P-164	集落	福岡市博多区	楽浪／壺（罐）？胴部片（網罟）／瓦質／薄い磨滅、白色泥質胎土、内面当具痕跡	詳細時期不明だが周囲は後期後半～終末の住居多数	報文 Fig. 87-32、寺井誠氏教示	吉留秀敏 1990、寺井誠 2006	福岡市第 227 集	後期後半～終末期か？
5	比恵 50 次 SP2028	集落	福岡市博多区	楽浪／壺（罐）？胴部片（網罟）／瓦質／薄い磨滅、白色泥質胎土、内面当具痕跡	6 世紀後半～7 世紀前半の掘立柱建物 S802 ビットに混入	報告なし、鄭仁徳氏確認	下村智 1995、寺井誠 2006	福岡市第 451 集	？（後期後半？）
6	比恵 51 次 SP3102	集落	福岡市博多区	楽浪／壺（罐）？胴部片（網罟）／瓦質／泥質胎土、内面当具痕跡	同じ掘立柱建物の他の柱穴（SP3234）に壺と鉢 2 点あり、壺は I A 期でもよいが鉢は浅い器形・丸底で新しく I B 期に入る	報文 Fig. 7-6、報告は「三緯系」とするが内外のタタキ痕跡と胎土から楽浪系	白井克也 1996	福岡市第 452 集	I B 期（終末期新相＝古墳早期）
7	比恵 91 次 包含層中層	集落	福岡市博多区	楽浪／大型鉢（盆）底部片／瓦質／白色泥質胎土、摩滅顯著で磨表面不明	弥生中期末～後期前半と I B～II A 期の土器群、朝鮮半島系に伴うのはおそらく（I B～）II A 期、他に忠清道系大型壺あり	報文 Fig. 29-235	山崎龍雄 2006a	福岡市第 898 集	古墳初頭（II A 期）
8	比恵 91 次 SC13	集落	福岡市博多区	楽浪／筒坯底部片／瓦質／白色泥質胎土、摩滅顯著で磨表面不明	I B 期主体・II A 期含む土器群（外系系多数）	報文 Fig. 29-234	山崎龍雄 2006a	福岡市第 898 集	古墳初頭（II A 期）
9	那珂 21 次 第 48 号祭祀土壌	墳墓	福岡市博多区	楽浪／壺（罐）？胴部片 2（網罟）／瓦質／薄い磨滅、白色泥質胎土	祭祀土壌は弥生境丘墓の周溝、祭祀土器は中期末主体だが上層は後期前半まで含む	報文 Fig. 232-73・74	山口隆治 1992	福岡市第 291 集	中期末～後期前半
10	那珂 21 次 第 49 号祭祀土壌	墳墓	福岡市博多区	楽浪／壺（罐）？胴部片（網罟）／瓦質／薄い磨滅、白色泥質胎土		報文 Fig. 239-32	山口隆治 1992	福岡市第 291 集	中期末～後期前半
11	那珂 73 次 S002	集落	福岡市博多区	楽浪／壺（罐）または壺？胴部下部小片（網罟）／瓦質／磨滅厚い、白色泥質胎土、右壁に網罟文、内面は磨滅し磨表面不明	SD02 は 7 世紀の遺構（混入）、SD02 に切られる住居址群は I B～II B 期、楽浪土器は I B～II A 期の可能性	報告は「三緯」としたが白色泥質で楽浪系か、報文 Fig. 47-364、Ph. 87	久住猛雄 2002	福岡市第 713 集	I B～II A 期（古墳初頭？）
12	雀居 4 次 SD03 上層	集落	福岡市博多区	楽浪／壺（長頸壺）？／瓦質／ロクロ目（網罟ナデ）顯著、薄い磨滅で精巧な作り、焼成堅緻	SD03 上層は I A 期が主体（I B 期以降も含む）	報文 Fig. 131-1233	下村智 1995、寺井誠 2006	福岡市第 406 集	I A 期前後（終末期か）
13	高畑 19 次 SD030	集落	福岡市博多区	模倣品（楽浪系の模倣か）／筒坯の模倣／軟質（弥生土器と同じ焼成）／円筒状器形・平底、外面ハケメ	後期後半新相～II A 期まで	報文 Fig. 12-28、同図 25 はより粗雑な模倣品の可能性	吉武学 2005、寺井誠 2006	福岡市第 799 集	後期後半～終末期か
14	下月限 C 7 次 SD818 5-2 区（南側）	集落	福岡市博多区	楽浪／筒坯底部片／瓦質／内表面黒色、泥質胎土、静止糸切痕	5-2 区は I A 期～II A 期、I B 期前後か	報文 Fig. 72-118	山崎龍雄 2006b	福岡市第 881 集	古墳初頭？
15	下月限 C 4 次 SD116	集落	福岡市博多区	楽浪／鉢（碗形）体部～口縁部／瓦質／回転ミコナテ痕跡顯著、泥質胎土	I B 期か？（I A～II A 期）	報文 PL. 82-545	瀧本正志 2004、寺井誠 2006	福岡市第 750 集	古墳初頭？
16	下月限 C 8 次 SD818 9 区上層	集落	福岡市博多区	楽浪／筒坯口縁部小片／瓦質／泥質胎土	上層は I B～II A 期	報文 Fig. 70-111	山崎龍雄 2007	福岡市第 932 集	古墳初頭
17	下月限 C 8 次 SD1210 最下層			楽浪／筒坯底部片／瓦質／内表面黒色、泥質胎土、静止糸切痕	多くの遺物は I A 期	報文 Fig. 75-154	山崎龍雄 2007	福岡市第 932 集	I A 期か？（後期後半～終末期）
18	下月限 C 8 次 SD1278 3 区			楽浪／筒坯底部～体部下半片／瓦質／内表面黒色、泥質胎土、静止糸切痕	後期後半～I A 期か	報文 Fig. 93-302	山崎龍雄 2007	福岡市第 932 集	後期後半～終末期
19	博多 17 次 S8169（竪穴住居）	集落？	福岡市博多区	楽浪／長頸壺（口縁部～頸部の同一個体計 2 片）／瓦質／薄い磨滅で磨滅、白色泥質胎土、比較的小型品であろう	S8169 は 7 世紀前半～中頃（九州須恵器類年表）の住居址、S8169 が切る方形周溝高 SK200 の周溝は III A 期古相、以上はいずれも時期が含み合わないが、接している SD161（道路遺構側溝）は I B～II C 期でこれが時期をしめすか（I B～II A 期？）	報文 Fig. 17-2・3（同一個体）	澤村・杉山 1985、寺井誠 2006	福岡市第 118 集	古墳初頭？

表 1：福岡市内における楽浪土器出土一覧表

これについては、関連して次に簡単な考察を加えたい。

2. 博多湾岸における楽浪土器の出土動向について

表 1 には各報告において楽浪土器と認識していないものも含むが、全て実見して確認している。なお表 1 は、寺井誠が検討した集成表（寺井 2006「福岡平野の楽浪系土器」『下月限 C 遺跡 VI』福岡市埋蔵文化財調査報告書第 881 集）に、さらに補遺集成したものである。楽浪土器の個体認識については寺井 2006 によるが、表 1 の 1・2・11・16～18 はさらに増えたものである。このうち 2 の今宿五郎江 11 次例は整理中のものであり、個体数などは変動がありうる。しかし、大規模調査により一度に弥生後期～古墳前期の集落の大部分を調査したにもかかわらず、今のところ確実なものは鉢（碗）類のみのである（本市埋蔵文化財第 2 課杉山富雄氏・加藤隆也氏御教示）。元岡 46 次例は筒坯であるが、これらのように筒坯や鉢（碗）類のような食器（碗坯類）のみが出土する例が散見される（表 1-1・2・14～18）。14～18 の下月限 C 遺跡も大規模調査により弥生後期～古墳前期の集落の大部分を発掘しているが、出土した楽浪土器はいずれも碗坯類のみである。博多（19）や雀居（12）のように長頸壺のみの出土の場合は評価に苦しむが、壺岐の原の辻や 13 の高畑例のように筒坯が模倣対象になっていることからすれば（寺井誠 2006 前掲）、楽浪土器の食器（碗坯類）が当時の一部階層（首長層か）の嗜好品であったと考えることができる（寺井誠 2006「古墳出現前後における朝鮮半島系土器の故地とその流入背景」『日本考古学協会第 72 回総会研究発表要旨』）。一方、4～10 の比恵・那珂では楽浪土器の器種が多様で出土の時期幅も広い。量的にはやや劣るが、糸島の諸拠点遺跡（三雲、深江井牟田、御床松原）や原の辻の様相に準じ、対外交易の拠点としてよい。碗坯類のみを出土する遺跡は、首長層の嗜好により、こうした対外交易拠点から二次的に楽浪土器を入手したと考えられよう。